

小学校発表後

- ・仕事の中でストレスや疑問に感じたことは大事にしておいてほしい。改善のチャンスであり、「改善の種」になる。
- ・文科省の実態調査等によると、宿題の丸付けや添削に時間がかかっている。宿題を出すことで安心感を持っている教員もいるが、宿題の質や必要性を見つめ直すことが必要である。
- ・教材教具の共有を学校内だけにとどまらず、市町単位でもできないかも検討していけるとよい。
- ・「何のために行っているのか」と目的にもどり、行事等を見直すことは大切な視点である。

中学校発表後

- ・PTA 活動の見直しは、教職員だけでなく、保護者の負担軽減にもつながる。学校側が付度し過ぎるよりは、PTA 側にまずは提案したり、意見を求めたりしてもよいと思う。
- ・ICT 活用による書類作成等の校務改善も大切であるが、それと同時に、その業務や事務自体が本当に必要なかを検討することも大切である。シートやシステムを”作る“ことが目的になっていることがある。

高等学校発表後

- ・各学校で作成している ICT を活用した届け出作成シートや集計シートは共有できる方法を考えてほしい。
- ・高校でやはり大きいのは部活動の時間。実践事例であったように、まずは教職員のあいだで対話する場を設けるのは、とてもいい一歩となる。

講評

- ・会議についての改善がどの校種でも見られたが、身近にできる業務改善である。曖昧な目的で会議を行っていないかを考えていかなければいけない。目的によっては会議ではなく、掲示や文書配布での伝達で十分な場合もある。
- ・会議を縮減した結果、コミュニケーションが不足し、チームワークが悪くなったということがないようにはなくてはならない。
- ・コピー機の置き場所を工夫し、交流スペースをつくるなど、レイアウトの工夫がコミュニケーションを増やすことができる。
- ・業務改善を行おうとすると、保護者等の反対の前に、教職員から反対されることがある。現状維持は安心で気楽であるから。教育現場は“増える”ことはあっても、“減る”ことはなかなかない。だが、このままだと、どんどん学校の業務が肥大化してしまう。
- ・果敢に見直しを行う発想をもってほしい。子どもの命や安全に関わらないことは、どんどん見直し、うまくいかなければ戻すなり別の方法をするなりの検証をすればよい。
- ・学年や校務分掌による業務負担の個人差をどう考えるか。これは同僚間で解決するのは難しいことであり、管理職の役割としてよく考えてほしい。
- ・ワーク・ログ（業務内容とかかった時間）を記録して自分の働き方を可視化することは大切である。「必要なことに時間が使えているのか」「もう少し短くできることはないのか」と自分の働き方を振り返ることができる。